

ねじりはちまき

厳しい暑さがようやく和らぎ、朝晩には、そよぐ風にほんのりと秋の気配を感じる季節になりました。さて、9月1日は『防災の日』です。近年は台風やゲリラ豪雨も増えており日頃からの備えがより大切になっています。今できる、おうちの『外と中』の安全対策チェックを載せましたのでぜひチェックしてみてください。

おうちの『外』：雨水の通り道をふさがない

○ベランダの排水溝・雨どいの掃除

木の葉やゴミが詰まっていると、大雨の際にあふれて室内に浸水する原因になります。

○飛ばされそうなものは室内へ

植木鉢、物干し竿、ごみ箱などは強い風で飛ばされると窓ガラスを割る危険があります。風が強くなる前に移動しましょう。

おうちの『中』：家具の配置を見直す

○【寝室】や【リビング】の安全確認

万が一の地震の際、寝ている場所やよく座る場所に、背の高い家具が倒れてこない配置になっていますか。

○出入口までの導線を確保する

万が一の避難の際、ドアの近くに家具があると、倒れた時に部屋に閉じ込められてしまうことがあります。出入り口付近はすっきりとさせておきましょう。

夏疲れが出やすい時期でもありますのでどうぞご無理をなさらず心地よい秋の訪れをのんびりとお迎えください。



有限会社 幸田建設

<会社近況>

ただいま、郡山市の現場で車庫建設工事をお世話になっております。

<9月の旬>

9月は実りの秋を代表する『梨』『ぶどう』が美味しい季節です。シャリシャリとした食感とみずみずしい甘さが魅力の梨は夏の疲れを癒してくれます。シャリシャリ感の正体は石細胞という食物繊維だそうです。一方、一粒一粒に濃厚な果汁が詰まったぶどう(特にマスカット)は、かじると皮がパチンとはじけるので、食感が心地よいですね。爽やかな甘さが広がります。どちらも今がまさに旬で、おうちでのデザートや秋のギフトにも喜ばれること間違いありません！ぜひこの時期だけの豊かな秋の味覚を楽しんでみて下さい。



<連休のおしらせ>

令和8年9月20日(日)～令和8年9月23日(水)

上記の期間、お休みさせていただきます。なお、9月24日(木)は通常営業致します。ご不便おかけ致しますが、宜しくお願い致します。

令和8年9月5日発行

有限会社 幸田建設

<発行責任者> 幸田久美

〒969-1204 本宮市糠沢字八幡 1-1

電話 0243-44-3816

<後記>十五夜の月ですね。9月25日

がお月見の日付だそうです。月見団子

やススキをお供えし、秋の夜長を過ご

す日です。1年で一番きれいな満月を

眺められるといいですね。(ほしの)

微細藻類の存在について

最近テレビ番組で「微細藻類」について、その果たす役割について紹介するのを見る機会があった。それを見て小生の認識不足を恥じるとともに、「微細藻類」の存在・役割について認識を新たにした次第である。そこで今回は、この「微細藻類」がどういう存在か皆さんに紹介したいと思う。よくご存じの方もいらっしゃるかと思うがお付き合いの程お願いしたい。

1. 藻類とは

藻類といえば、「海藻」であるワカメや昆布が連想されるが、「微細藻類」についてはご存じの方は多くないと思われる。藻類は、コケ植物、シダ植物、種子植物といった陸上植物以外で「光合成」を行う植物で、淡水、海水といった水中に生息する。藻類は、以前は「植物界」に分類されていたが、現在は「原生生物界」に分類されている。

(注) 原生生物界：真核生物のうち他の界に属さない単細胞の分類群
そして「藻類」は次の二つに分類される。

- ① 肉眼で見ることができる藻類（大型藻類）：ワカメ・昆布・海苔・ヒジキ・モズク
- ② 肉眼で識別困難で、非常に微細な藻類（微細藻類）。大きさは、1マイクロメートルから1ミリメートル程度のもの。

2. 微細藻類とは

微細藻類は、単細胞生物で水中に浮遊して生息しており、植物プランクトンとも呼ばれている。その種類は数十万種に及ぶといわれる。微細藻類は生態系において重要な役割を果たしている。それは次のとおりである。

- ① 微細藻類は、池・湖などの淡水中や海水中に生息しておりながら、光合成を行う。
- ② 光合成は、太陽光を利用して二酸化炭素を固定し、酸素と炭水化物を作り出すプロセスである。微細藻類は、地球の酸素の約50%を生成するといわれており、そのため地球上の生態系において重要な位置にある。
- ③ 微細藻類は、哺乳類が誕生するよりかはるかに昔である約30億年以上前に地球上に現れ、現在の地球環境の土台をつくってきた。進化の過程で光合成ができるようになり、太古の地球の酸素が生産されたと考えられており、そして現在に至るまでその重要な役割を果たしている。

- ④ 微細藻類は、酸素の産生だけでなく、食物の連鎖にもなくてはならない存在である。微細藻類などの植物プランクトンをミジンコなどの動物プランクトンが食べ、その動物プランクトンを小魚が、その次に小魚を大型魚が食べ、その大型魚を人間が食べるというような食物連鎖、つまり微細藻類は生命の連鎖の基盤になっているのである。つまり、食物連鎖を通して、微細藻類は人間に食料を提供しているともいえるのである。
- ⑤ 以上の通り、微細藻類は地球環境の基盤を造り、そして今もなお地球上の生命をつないでいる。

3. 微細藻類への期待

現在、地球環境は温暖化の進行により様々な課題を抱えている。それら課題解決を解決する素材として、微細藻類が注目されているのだ。注目されている微細藻類の機能や特徴は次の通りである。

- ① 生産効率が高いこと：増殖速度が速く、単位面積当たりのバイオマス（生物資源）の効率が陸上植物に比べ高い。
- ② 農地と競合せずに培養可能なこと（農地として利用できない場所でも培養可能）。
- ③ 連作が可能である。
- ④ 光合成により二酸化炭素を吸収すること。
- ⑤ バイオ燃料の原料になる種類がいること。その体内にバイオ燃料に適した油を造るタイプがあり、石油に代わるものとして注目されている。

（注）藻類系バイオ燃料：微細藻類が光合成で生産する油脂や脂肪酸を原料ディーゼル、ジェット燃料などにする、次世代バイオ燃料である。高いCO₂削減ポテンシャルを持つ一方、培養・回収コストが高く、実用化途上にある。

特に、⑤に注目したい。実用化されればこれは画期的なことである。是非実用化に向けて関係機関に頑張ってもらいたいと思う。

今回はこれで終わります。いかがだったでしょうか。